



2020 INTERNSHIP REPORT

インターンシップ実施報告書

FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING
IWATE UNIVERSITY



岩手大学理工学部



岩手大学インターンシップ実施概要

インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省定義）で、岩手大学では下記概要により実施しています。

1.目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」（以下「インターンシップ」という）事業は、学生に職場体験させることにより、主体的で創造的な人材の育成を計ることおよび事業所、地域との連携を図りながら、広く社会に貢献することを目的としています。

2.対象学年

この科目の主な対象学年は3年次で、集中学習として計3回の事前・事後指導全てに参加する必要があります。なお、単位認定も実施しており取得できる単位数は1、または2単位です。

3.実習期間及び実習内容

実習期間は原則として夏期休業期間中の1週間以上（40時間）です。1週間（40時間）の実習で1単位、2週間以上（80時間）の実習で2単位が取得できます。

実習内容は基本的に各事業所等が作成したカリキュラムによります。



2020

INTERNSHIP REPORT

インターンシップ実施報告書

FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING IWATE UNIVERSITY

CONTENTS

物理・材料理工学科 マテリアルコース	2
システム創成工学科 知能・メディア情報コース	3
システム創成工学科 機械科学コース	4
システム創成工学科 社会基盤・環境コース	6
2020 年度夏季インターンシップ受け入れ事業所実績一覧	8
事業所実績等内訳	9
実習カリキュラム	10
理工学部インターンシップ実施要領	11
理工学部インターンシップのながれ	12
アンケート／事業所・学生	13
インターンシップ実施委員名簿	

INTERNSHIP REPORT

Pick Up

品質評価によって支えられる
高品質な企業のものづくり

佐々木 悠真

【期 間】

令和2年8月24日(月)～
9月4日(金)〈10日間〉

【実習先】

岩手県工業技術センター

インターンシップ実習報告

私は、8月24日から9月4日までの2週間、岩手県工業技術センターにてインターンシップをさせていただきました。

今回お伺いした岩手県工業技術センターは機械系のことから鑄造、複合材料、醸造、食品など多岐にわたって活躍されています。私が配属された部署は素形材プロセス技術部で、アルミニウム合金の鑄造を専門としている方に指導していただきました。また、アルミニウム合金鑄造の際の溶湯品質評価(溶湯がどの程度きれいになっているか)について減圧凝固法を用いて調査しています。素形材プロセス技術部では、個人で研究開発を行いながら企業からの相談などに対し支援を行っています。

実習内容は主にアルミニウム合金溶湯を、減圧凝固法やKモールド法(介在物量を評価できる)を用いて評価することでした。また、企業の方からの製品欠陥に関する相談に対する支援や、鉄瓶製造の現場の見学をさせていただきました。

純アルミニウム(純A)とアルミニウム8%シリコン合金(A-8%Si合金)を溶解しました。純アルミニウムは凝固する際の収縮が大きいのです

がシリコンを添加することで収縮量が減少するというのを実際に観察できました。減圧凝固法の結果には介在物量が起因しているのではないかと考えられました。減圧凝固法による凝固形態からガス量と介在物量の関係にある傾向がみてとれました。この一連の評価を通して溶湯に脱ガス処理や酸化物や介在物の除去を行います。実際に溶湯がどの程度きれいになったのかというのがわかる技術について理解を深めることができました。

異なる2社の鉄瓶製造の現場を見学させていただきました。製造法について勉強していましたが実際に見学するのは初めてのことで鉄を流し込むところや湯返しするところ、型から製品を取り出すところなど迫力を感じました。同じ鉄瓶を作るにしてもその会社によってやり方が全く異なっており、それぞれの会社のこだわりを感じました。

企業の方から製品の欠陥や技術的な相談などの業務もお手伝いさせていただきました。実際の鑄造現場ではどのような欠陥が生じ、どのような支援が必要なのかということを知ることができ、また全く同じ相談などはほとんどなく、毎回異なる相談に対応することの難しさや、やりがいを感じることで

ました。

この実習を通して、自分の知識不足を感じることも多々ありましたが、品質評価や企業支援をする職業について理解を深められました。大学で学んだことを実際の現場で活かしていくには経験を積むことが大切なのだと感じました。普段の大学生活では体験できない貴重な体験をさせていただき、非常に充実した2週間となりました。

最後になりますが、お忙しい中貴重な時間を割いてご指導してくださった、岩手県工業技術センターの方々から感謝申し上げます。ありがとうございました。



左：Al-8%Si 合金
右：純Al



減圧凝固断面図、
エッチング処理有と
処理無写真

● INTERNSHIP REPORT



インターンシップ実習報告

Pick Up

自身の学んできたものづくりと
現場のものづくりの違いを見極める

わたなべ
渡邊

たくま
拓真

【期 間】

令和2年8月31日(月)～
9月11日(金)〈10日間〉

【実習先】

矢崎化工株式会社

今回私は、地元の静岡に本社をおく、矢崎化工株式会社様のインターンシップに参加させていただきました。製作を実際に体験させていただけるという内容の説明が事前にありました。自身の研究室で製作してきた荷物の自動仕分けロボットに近いものを感じたため、この実習内容に惹かれ応募しました。大学でのものづくりとして製作してきた仕分けロボットではどのようにして荷物を認識し、運び出すかを大学で学んできた知識を生かしてとりかかってきました。今回のインターンシップでは実際に製品化されるものづくりで自分の学んできたこと、体験したことがどれだけ発揮できるかを試みる機会であるとも考えていました。

初日は会社説明と安全面での注意、最後に社員の方々と対談させていただきました。その後の四日間はAGVの説明、実際の製品の解体・組み立てを行いました。組み立てには指定のネジ締め工具からトルクの強さまでありました。私は情報を専攻している人間なのでもちろん機械分野の知識はなく、組み立て書を見ながら組み立てるのは新鮮でしたが、図や工具、強さまで細かな表記がわかりやすく記されていたところに、故障や異常がない確実なものを

製作することを考慮しているのうかがえて、製品化されるものづくりと私が今まで行ってきた大学でのものづくりの決定的な違いが見えました。

第二週目では、組み立て終えた製品の検査・動作テストを行いました。パソコンを使用して製品自体の動作を外部から制御をしていました。外部制御が可能である状態には消費者に渡った後のサポートや責任をしっかりと負えるようにするという背景があり、とても勉強になりました。インターンシップ最後には実際の製品を使用し、作業効率改善を図ったAGVの製作をさせていただきました。

AGVとしてのメリットである作業速度の安定さ、スペースの省略化が失われないようにどのようなラインをAGVで実現できれば良いかインターンシップ参加者一同で考え、昨年度に比べ差別化したものを目指して実現できました。他大学の学生との交流も深められて良い機会になったと感じています。

この2週間、自身の行ってきたものづくりと比較しながらインターンシップに参加させていただきました。大学のものづくりではセンサーやモーター等で複数の機能を組み込み、自分の学んできたことを生かしながらものづくりに取り組んできました。

しかし、専門的知識以外で考慮すべき部分があるものづくりには多く存在するとこのインターンシップで実感しました。社会に出て必要になってくるスキルを身に着けるため、課題が見つけれられました。私がやりたいとする道に進んでいくために様々な課題を今後発見していこうと思います。

INTERNSHIP REPORT

Pick Up

東北で唯一の巨大電波暗室で
貴重な電波実験を体験！

ひがしもと
東本 大和

【期 間】

令和2年8月24日(月)～
9月4日(金)〈10日間〉

【実習先】

岩手県工業技術センター

インターンシップ実習報告

私は今回、8月24日～9月4日までの間、岩手県工業技術センター電子情報システム部のインターンシップに参加しました。

今回行ったことは、「播種装置の動作システムの開発」「播種装置の機構設計」「Dobot magicianを、画像認識をトリガーにして動作させる」「AI用の学習データづくり」「センター内見学と機器説明」でした。まず、「播種装置の動作システムの開発」についてです。私は、自動で玉ねぎの種まきをする(播種)装置の動作システムを開発しました。具体的には、播種装置のアクチュエータになっているDCモータをPICというマイコン+フォトセンサを用いて制御するというものでした。プログラムはArduino IDEで書くようなスケッチと似ているので、Arduinoのスケッチを触ったことがある私にとっては、なじみのあるような言語でした。しかし一方で、電気回路の知識がまだまだ不足しており、それが原因のエラーが多発してしまいました。最終的にはエラーを克服し、思うように動作させることができたので、良い勉強になったと思います。配線図もメモしたので、似たような回路を大学で組む際に役に立つと思います。

次に、「播種装置の機構設計」についてです。これは、実際にCAD (Solidworks) を用いて播種装置の

トレイを動かす機構を作成しました。大学の講義でSolidworksを教わっていたので、それが生きた瞬間だと実感しました。

「Dobot magician」を、画像認識をトリガーにして動作させる」については、Dobot magicianと呼ばれる4軸スカルロボットを、カメラ内に物体が入ったことをトリガーにして動作させるというものを行いました。時系列的に「播種装置の動作システムの開発」の後にこれを行ったので、少し理解が進んだ状態で電気回路を組むことができました。制御はArduinoによって行ったので、比較的スムーズに書くことができました。また、カメラの画像処理はRaspberry Piによって行いました。

「AI用の学習データづくり」では、カメラ画像から特定の部分を切り抜いてAIに学習させる用のデータを作るということをしました。AIは自動でいろいろなものを行ってくれるような印象が強いですが、AIをそうさせるためには結局人の手で学習をさせることが必要であるということ、また、その学習の大変さを学びました。

「センター内見学と機器説明」については、実に様々な設備を見学しました。振動試験装置やX線CT、半導体開発用のクリーンルーム等様々なものを見学しましたが、なかでも強く印象に残っているのは巨大な電波暗室です。この電波暗室では、電子機器

が放出している電波が他の機器に悪影響を及ぼさないかの検査と、ある程度強い電波を当ててもその電子機器が壊れないかの検査が、VCCという規格に基づいて行われていました。なぜこの設備が印象に残ったのかというと、ここは全国でも珍しい10m級の試験を行うことができるからです(10mは電子機器から電波受信体や電波発生体までの距離)。民間を除いて東北にはここしかないらしく、全国各地からこの施設を利用しに来ると聞いて驚きました(検査しに来たことがあるもので一番驚いたものは人工衛星でした)。また、電波暗室を使って小規模な実験もしました。内容としては、販売されているPCからはどのくらいの電波が出ているのか、ラジオに電波をぶつけるとどのように聞こえるのかというものでした。このような実験はここでは体験することのできないので、非常に貴重な経験でした。

最後に、今回インターンシップ直前になって滑り込んできた私を温かく迎えてくださり、丁寧なご指導をしてくださった岩手県工業技術センター電子情報システム部の皆様に心から感謝申し上げます。どの内容も非常に良い経験になり、実際の職場がどのような雰囲気やスケジュール感で動いているのかも知る良い機会になりました。誠にありがとうございました。



● INTERNSHIP REPORT

インターンシップ実習報告

私は8月31日から9月11日までの2週間、静岡県静岡市にある矢崎化工株式会社にてインターン実習をさせて頂きました。

今回のインターンシップ事業先を選んだ理由は大きく3つあります。1つ目は私は機械科学コースに所属しているため材料の性質を考えたり、機械科学実習での内容を生かしたりすることができると思ったからです。2つ目は所属研究室で荷物の自動仕分けロボットの製作をしているためAGV（無人搬送車）について取り扱う実習のカリキュラムとマッチしていると感じました。3つ目は授業内で岩手県の地域企業について考えた経験から私の地元である静岡県で活躍されている企業に興味、関心を持っていたからです。

初めの一週間はAGVについての概要説明や分解・組み立てを中心に行いました。分解作業は簡単に終わらせることができたのですが、組み立て作業は時間がかかり難しく感じました。手順書を理解しながら作業を進めていかないと間違っており付けてしまったら完成した時の故障原因につながります。特にトルクレ

Pick Up

大切なのは効率ではなく安全性
そしてミスのない正確性が重要

いずも
ともや
出雲 友也

【期 間】

令和2年8月31日(月)～
9月11日(金)〈10日間〉

【実習先】

矢崎化工株式会社

ンチを使つてのねじの締め付けに大きなトルクが必要だったので大変でした。初めのうちは進行が遅かったのですが少しずつ工具の使い方に慣れることや同じ班の仲間との連携をうまく取ることができたので効率よく作業できたと思います。しかし、作業を進めていく上で大切なことは効率性ではなく安全性であること、を初めに学びました。事故を起こして怪我をしてしまつと作業効率が悪くなるだけではなく周りの方にも迷惑をかけてしまいます。「安全第一」を常に意識しながらも作業を進めることができたと思います。

2週目にはオリジナルのAGVを構想し製作しました。実習生5人で意見を出し合いながら協力しました。私たちはAGVの使用場所を工場の組み立てレーンを想定し考えを進めました。Aステーション、Bステーション、AGVの3つを製作し、2つのステーション間でAGVを介しての荷物のやり取りができるような機構にしました。荷物の受け流しはカラクリを用いて行いました。荷物を一つずつ流すことができるようにしたり、実際の組み立てレーンでの使用を考えるとミスのない正確性が求められたりするため3つの製作物にカラクリを取り付ける作業が一番難しかった。

たです。最終日には技術センターの社員の方々の前で製作物の発表を行いました。うまくカラクリが動作し荷物の受け流しができるか不安でしたが、無事に成功させることができました。最後には社員の方々から大きな拍手をいただくことができ嬉しかったと同時に達成感を感じました。

今回の実習では普段の大学の生活や授業では味わうことのできない貴重な体験をさせていただくことができました。初日は期待と同時に不安もありましたが、社員の方の厚いご指導のおかげで、実習に対する不安が楽しさになり充実した時間を過ごすことができました。今回が私にとって初めてのインターンシップでした。私自身が社員の1人になることができたからこそ、会社の雰囲気を感じることができたと思います。今後の研究にだけでなく就職活動にも経験したことを生かしていきたいと考えています。

最後になりますが、お忙しい中実習先として受け入れご指導してくださった矢崎化工株式会社の皆様には心より感謝申し上げます。



INTERNSHIP REPORT

Pick Up

環境とライフラインの双方から
社会に貢献する

佐々木 亮輔

【期 間】

令和2年

8月24日(月)～28日(金)〈5日間〉

9月14日(月)～18日(金)〈5日間〉

【実習先】

いであ株式会社 東北支店

国土交通省 東北地方整備局
岩手河川国道事務所

インターンシップ実習報告

私は8月24日から8月28日の5日間をいであ株式会社東北支店で、9月14日から9月18日の5日間を国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、インターンシップ実習を受講させていただきました。

いであ株式会社は、河川・道路・橋梁などの建設コンサルタントと環境コンサルタントを統合した総合コンサルタントで、社会基盤整備や環境保全に関する計画・設計、維持・管理などの業務を行っている会社です。実習を希望した理由は、道路設計に興味があり、建設コンサルタントの業務を体験してみたいと思ったからです。今回実習を受けた道路橋梁部では、道路と橋梁の設計・計画や補修・補強のコンサルティングを行っています。実習では、AutoCADを用いた道路設計や、VnasやJSP-1M等のソフトを用いた橋梁の設計について学びました。また、宮城県気仙沼市本吉地区の国道と橋梁の工事現場を見学させていただきました。道路や橋梁の設計は、コストや安全性が求められるとともに、発注者の要望に合わせた細かい修正も必要になるので、仕事は高い集中力と根気強さが必要だと感じました。自身が設計した構造物が数年から10年程度の

スパンで作られ、それが地図に残るということが建設コンサルタントの魅力の1つであると思いました。



東北地方整備局は、河川・道路事業、港湾・空港事業、公園・営繕事業など、多岐に渡る業務を行っています。今回はその中でも、河川や道路などを整備・管理するとともに、防災や復興支援の事業も行っている岩手河川国道事務所の業務に関心があつたので、実習を希望しました。実習では、主に道路・河川・砂防の3つの事業について学びました。特に私が興

味を持っている道路事業では、開通に向けて工事している宮古盛岡横断道路の現場を見学させていただきました。道路や橋梁、トンネルの工事、ICTの技術を利用した施工などを見たり、トンネル内の未舗装の道路を車で走ったりと、大変貴重な体験となりました。この道路が開通することで盛岡と宮古間のアクセスが約40分も短縮され、医療活動の迅速性を確保できるなどの効果が期待されるということでした。また、整備局では大きな災害が発生又は発生の恐れがある場合、TECHORE(緊急災害対策派遣隊)やリエゾン(情報連絡員)を広域に派遣して被災状況の情報収集や支援を行っているとのこと、災害対応を進める上で非常に重要な役割を担っていることが分かりました。

10日間の実習を通して、働くことの意義さや責任の重さを感じました。また、民間企業と公務員の業務を体験したことによって、双方の特徴や違いについて理解でき、自身の適性についても深く考えることができました。今回の実習で得た知識や経験を、今後の学習や就職活動に活かしていきたいと思っています。



最後になりますが、大変お忙しい中インターンシップ実習を受け入れてくださったこと、また、皆様に温かく丁寧にご指導いただいたことに、心より感謝申し上げます。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

「道路は10年やって1人前」
常にアンテナは高く学び続ける

さわだ
澤田 たくま
拓真

【期 間】

令和2年8月24日(月)～
8月28日(金) 5日間

【実習先】

大日本コンサルタント
株式会社 東北支社

インターンシップ実習報告

私は大日本コンサルタント株式会社にてインターンシップに参加させて頂き、道路分野業務の実習を行なった。建設コンサルタントでの職務や個人的興味がある道路事業を多面的に理解すること、将来の仕事像や今後必要なこと考えるためである。

実習期間中は道路概略設計を行なった。まず地図から地形や施設位置を読み取り、道路を通すべきでない場所と道路を通したほうが良い場所を設定した。これをもとに異なる特徴の路線案を8案設定し、道路機能や地域特性から吟味した上で、最終案を決定した。一見単純そうに見えるが、計画道路の機能を理解すること、走行性・経済性を十分考慮すること、地域計画に沿ったものであることが求められるので十分熟考して作業を進める。その成果に対して自ら考えを発注者や住民に説明することが求められる、故に自分の考えを分かりやすく説明するために十分なデータ整理が必要だと分かった。他、橋などの構造物がある場合や地質上の問題がある場合、それぞれの部署の専門技術者とタッグを組んで仕事にかか

るので、自分で広く知識に精通すること、他分野との連携が取れることが必要だと分かった。



インターンシップ期間中、都市計画についても実例をもとにレクチャーを頂いた。一見都市計画と道路は関係なさそうだが、国や都道府県での上位計画をもとに道路網が決まることが多いことや、ハード対策とソフト対策の役割や活かし方を学んだ。例えば渋滞を解消するという目標があるとすれば、バイパス建設以外にも公共交通への誘導や時差出勤といった政策アプローチがある。ただ一点を見るだけでは良案は出なく、幅広い視野で案を見ることが建設コンサルタント業務で大切になると考えた。

さらに、社員の方の仕事のやり方について見学させて頂いた。建設コンサルタントは業務量の多さや長時間残業が問題視されることがあるが、週1回の工程会議で分担調整すること、ノー残業デーを設定し定時退社を促すこと、定期的な面談で健康観察をすることなど働きやすい環境づくりを進めていることを知った。さらに休日や退社後の時間を趣味や社内同好会で余暇を過ごしたりするなどメリハリのある働き方をしていることも知った。ただストイックに仕事にかかるのではなく、自分が好きなことややりながらOnとOffをうまく切り替えて仕事に当たるほうが仕事も捗るのではないかと、このことより考えた。

インターンシップで得られたことは、まず道路事業の幅広さである。最初道路設計と言えば新設路線の設計が主だと思っていたが、実際は事業前検討から維持管理まで広く扱い、さらに内容も路線や舗装だけでなく標識や交差点検討まで広く及ぶことを理解した。これらを扱うには個人レベルでも多くの知識を必要とし、授業で網羅できるものではない。実習中社員の方から「道路は10年やって1人前」という言葉を頂いたのを覚えている。常にアンテナは高く、長い目で勉強を続けることがポイントになる。

今回は道路事業を中心に実習を行なったが、他分野も今後ぜひ体験したいと考えた。最後に、多忙で社会情勢上困難があったにも関わらずインターンシップを受入れてご指導くださった大日本コンサルタント株式会社東北支社の皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

2020 年度夏季インターンシップ 受け入れ事業所実績一覧（五十音順）

事業所名	所在地	期間	実習生数	コース名
いであ株式会社東北支店	宮城県	5 日	1	社会基盤・環境
地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	盛岡市	10 日	3	マテリアル、機械科学
オリエンタル白石株式会社東北支店	宮城県	5 日	1	社会基盤・環境
川田工業株式会社	富山県	5 日	1	社会基盤・環境
ケミコン東日本株式会社岩手工場	北上市	5 日	1	社会基盤・環境
国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	盛岡市	5 日	1	社会基盤・環境
大日本コンサルタント株式会社東北支社	宮城県	5 日	1	社会基盤・環境
大和リース株式会社仙台支社	宮城県	5 日	1	社会基盤・環境
日本ファブテック株式会社	茨城県	5 日	1	社会基盤・環境
パシフィックコンサルタンツ株式会社東北支社	宮城県	5 日	1	社会基盤・環境
矢崎化工株式会社	静岡県	10 日	2	知能・メディア情報、 機械科学
事業所数 計 11 事業所 延べ実習生数 計 14 名 (複数事業所での実習有)				





事業所実績等内訳

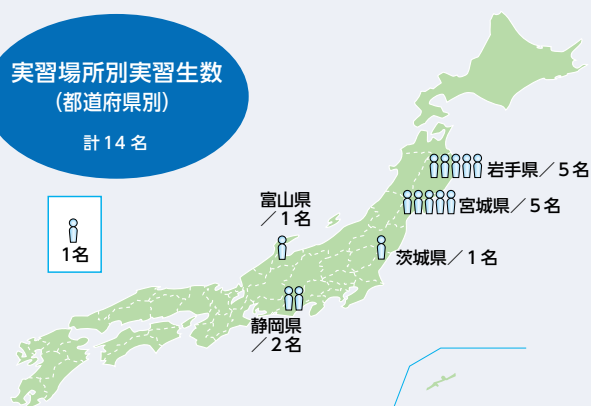
実習場所別事業所数 (都道府県別)

計 11 事業所



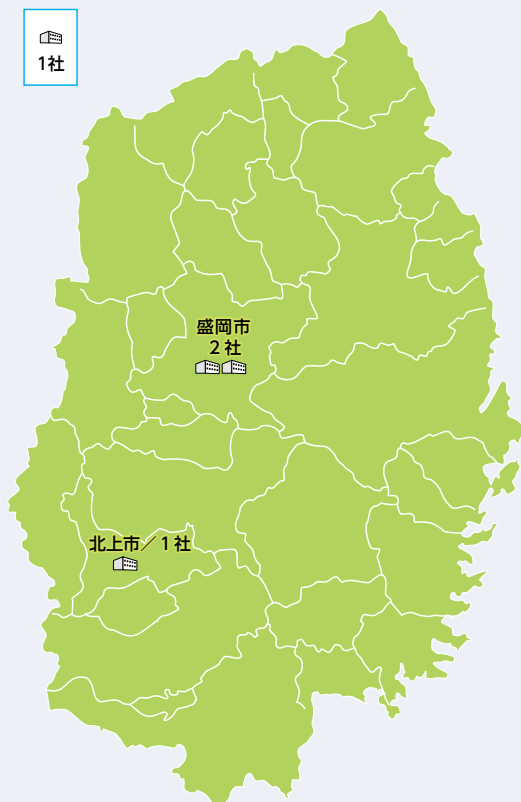
実習場所別実習生数 (都道府県別)

計 14 名



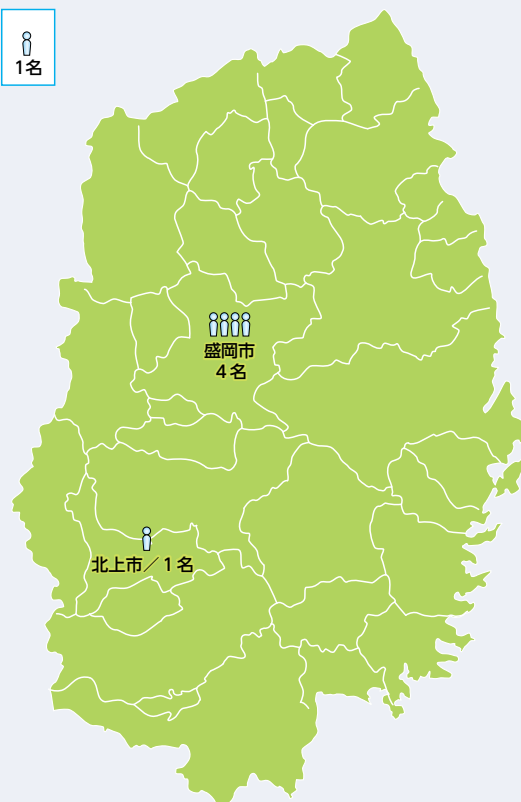
実習場所別事業所数 (県内市町村別) 計 3 事業所

1 社



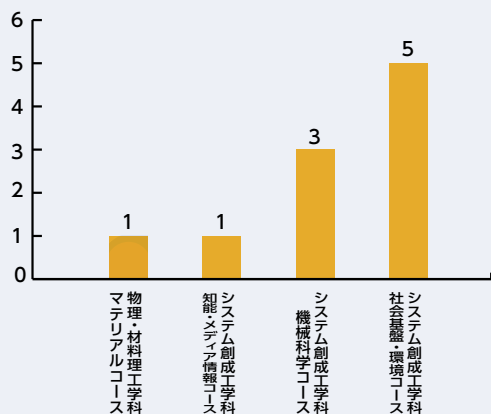
実習場所別実習生数 (県内市町村別) 計 5 名

1 名



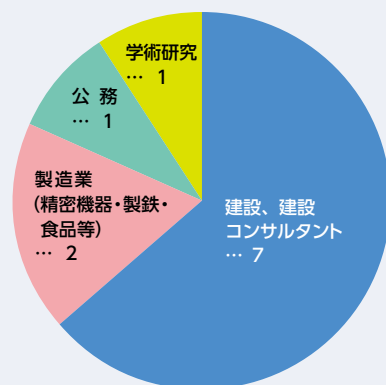
コース別実習生数 (実数)

計 10 名



業種別事業所数

計 11 事業所





株式会社ノーザンシステムサービス 〈職種：WEB システム開発〉

- 実習生 情報システム工学科 1名
- 実習期間 平成 29 年 8 月 21 日 (月) ～8 月 25 日 (金)

【インターンシップ・体験学習講座カリキュラム】

日 程	午 前	午 後
8月21日 (月) <1日目>	【オリエンテーション】 ○弊社の業務の概要 ○作業内容の概要や目的	○問題解決のためのヒアリング ○問題解決のためのアイデア出し
8月22日 (火) <2日目>	○提案書作成 ○レビュー	○設計書作成 ○レビュー
8月23日 (水) <3日目>	○プログラム製造	○プログラム製造 ○レビュー
8月24日 (木) <4日目>	○プログラム製造 ○レビュー	○プログラム製造 ○レビュー
8月25日 (金) <5日目>	○最終レビュー ○品質チェック	○プレゼン発表 ○まとめ

- 受入の意図・ねらい
 - ・地域における企業としての社会的役割を担うため。
 - ・学生に社名や業務内容を知ってもらうため。
 - ・インターンシップを通じ、就職活動における企業研究の重要性を理解してもらうため。

- 受入に当たり工夫した点
 - ・課題をどのようにまとめるかを考えさせ、期限を設定し、責任感を持たせた。
 - ・同行可能な長年取引のあるクライアント先に連れて行き、一緒に作業を行った。
 - ・関連技術の背景や歴史についての紹介を取り入れた。

- 学生の研修への取り組み
 - ・指示されたとおりのプログラムを開発するカリキュラムでないため最初のヒアリングで戸惑いがあった。
 - ・前向きに意欲的に取り組む姿勢が良かった。
 - ・コミュニケーションの重要性に気づき理解してくれた。

- 今後の改善点
 - ・就職活動に関して、若手社員への質問が予想以上に多かったため、就職活動に関する懇談の時間をもうける。
 - ・クライアント先での作業は、学生からの感想が良かったので、条件がそろえば今後も取り入れていく。

【事業所内容】

住 所 〒020-0866 岩手県盛岡市本宮 4 丁目 3-5
マップセンタービル
TEL/FAX 019-631-1781 / 019-631-1782
設 立 2001 年 4 月 1 日
資 本 金 1,000 万円
代 表 代表代表取締役 川村 尚司
社 員 数 20 名

事業所からの Q & A

Q 各学科の授業科目の学習内容を確認したいのですが？

A 大学のホームページに各授業科目のシラバスがありますので、そちらでご確認ください。
大学シラバスサイト：
<http://www.se.iwate-u.ac.jp/syllabus>

Q 学生との雇用関係はありませんが、受け入れた学生自身の傷害事故・学生の過失による事業所・第三者への加害事故による補償はどのようになっていますか？

A 学生自身の傷害事故については、基本的に自己責任との観点から、事業所の過失の有無とは無関係に一定の保険金が支払われる傷害保険等の加入を指導し、大学で加入済みの確認をしています。また、必要に応じて事業所側で賠償責任に備え保険に加入することはかまいません。なお、大学で加入指導している学研災・賠償責任保険の補償と保険料は下記の表のとおりです。

Q 実習生と協議し実習期間を事前に調整しましたが、開始日、実習期間などは変更してもよろしいでしょうか。

A 大学・実習生・受入事業所間で取り交わした「岩手大学理工学部インターンシッププログラム覚書」には、実務を経験する期間の具体的な日程は明記されていませんので、開始日、実習期間の延長なども三者で調整いただければ結構です。

【学研災・賠償責任保険の補償と保険料の例】 (2020 年度現在) ※詳細は加入時に確認して下さい。

名 称／学生教育研究災害傷害保険 (1,200 万円コース)

死亡保証金	1,200 万円 (正課中・学校行事中の場合)
後遺障害保険金	程度により 72 ～ 1,800 万円 (正課中・学校行事中の場合)
医療保険金	治療日数 (1 日目～) により、3,000 円～ 300,000 円 (正課中・学校行事中の場合は 1 日以上が対象) 入院加算 1 日につき 4,000 円 (180 日限度)
保険料	年額 820 円 2 年間 1,440 円 ※付帯特約を含む。

名 称／学研災付帯賠償責任保険

(※こちらの保険は学生教育研究災害傷害保険の加入が必須条件です)

賠償責任保険金 対人賠償と対物賠償合わせて 1 事故につき 1 億円限度

対象・保険料 A コース 正課、学校行事など (インターンシップを含む)
(年額 340 円)



事前にインターンシップをきちんと理解してもらい、
事後もしっかり指導を行っています

岩手大学理工学部インターンシップ実施要領

インターンシップ実施委員会

1 目 的

岩手大学理工学部「社会体験学習」（以下「インターンシップ」という）事業は、学生に就業体験をさせることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ること及び事業所、地域との連携を図りながら、広く社会貢献の基盤を作ることを目的とする。

2 対象学年等

この事業は3年次対象の集中学習とし、単位数は1～2単位とする。
なお、単位認定は1週間(40時間)を1単位、2週間(80時間)を2単位とし、2単位を限度とする。
また、大学院生の受講を認める。

3 実施期間

インターンシップは、主として夏季休業期間に実施する。

4 受入事業所の確保

インターンシップにおける受入事業所の確保のために4月上旬に受け入れの依頼を行い、受入条件を確認の上、事業参加への了承を得る。

5 受入事業所の公表

受入事業所の内容・条件(受入機関の名称、業務、住所、受入期間、学生のインターンシップ内容、交通・宿泊施設の有無等)は5月中に公表する。

なお、実習中の報酬については原則無報酬として扱う。

6 他機関によるインターンシップ事業への参加

本事業以外に実施されている他機関の主催するインターンシップ事業に参加することができる。

ただし、単位認定に関する申請等は本事業の実施要領に基づき対処する。

7 自己開拓事業所の決定

学生が自己開拓した受入事業所を希望した場合は、委員会が実習体制、カリキュラムの内容を調査し、適否を判断する。

8 履修申告

インターンシップ事業に参加を希望し、単位認定を受けるために、希望学生は授業科目「社会体験学習」を申し込まなければならない。

9 受入事業所の調整及び決定

受入事業所の公表により参加希望学生から提出された志望理由及び事業所の受入条件を委員会で調整の上、インターンシップ派遣学生を決定し、6月中に発表する。

なお、受入期間及び受入事業所における実施カリキュラムの内容の決定は随時調整することができる。

10 覚書の取り交わし

インターンシップ派遣学生、受入事業所及び大学との三者で覚書を取り交わし、実施形態・実施方法を確認する。また、実習生紹介書(履歴書)を受入事業所に提供する。

なお、他機関によるインターンシップ事業での参加学生の場合は理工学部インターンシップ事業の覚書等を省略することができる。

11 就業体験中における事故・損害、機密保持

就業体験中に万が一発生する事故等に備えて、インターンシップ参加学生の傷害・損害等の保険加入を指導し、派遣確定後は大学で加入の確認を行い、リスクの解消に対応する。

なお、保険の種類として学生自身が傷害を負う場合及び学生が受入事業所や第三者に損害を与える場合に対応できる保険とする。(委員会では「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」を推奨する。)

また、受入事業所との覚書によって、守秘義務を負うことを確認する。

12 事前指導

インターンシップ希望学生は事前指導を受講しなければならない。事前指導ではインターンシップの目的・効果、安全教育、職業意識と心構え、ビジネスマナー、業界及び事業所の研究、履修指導、保険加入等の指導及び学習に関して数回に分けて行い、インターンシップの効果を上げる。

なお、事前指導の内容は委員会で決める。

13 インターンシップ実施前の打ち合わせ

インターンシップ参加学生は実施前に受入事業所との打ち合わせを行い、インターンシップの実施に支障が無いように調整する。

14 インターンシップの実施期間の体制

インターンシップが学外の受入事業所で行われること、特に運営が大学等の休業期間中に実施されることから、非常時の連絡体制を整備する。

15 事業所訪問

インターンシップ実施委員会委員は実習を円滑に進行させるため、また、大学と事業所間の連携活動として、インターンシップ期間中に事業所を訪問し、事業のフォローアップを図る。

16 就業体験の評価・報告

受入事業所では実習に対する学生の態度、テーマへのアプローチについての評価・報告を行い、大学では学生成績評価の総合判定資料とする。

また、インターンシップ実施中の学生は実習日報を作成することにより設定テーマの進捗状況を確認し、目標達成度を判断すること。最後に自己評価を含めた実習レポートを作成し、大学に提出する。

17 事後指導

インターンシップ終了後、実習で得たものを学生が互いに認識し確認しあうために、学生間のディスカッション、自己評価及び今後の学習に必要な課題提出等の指導を行う。

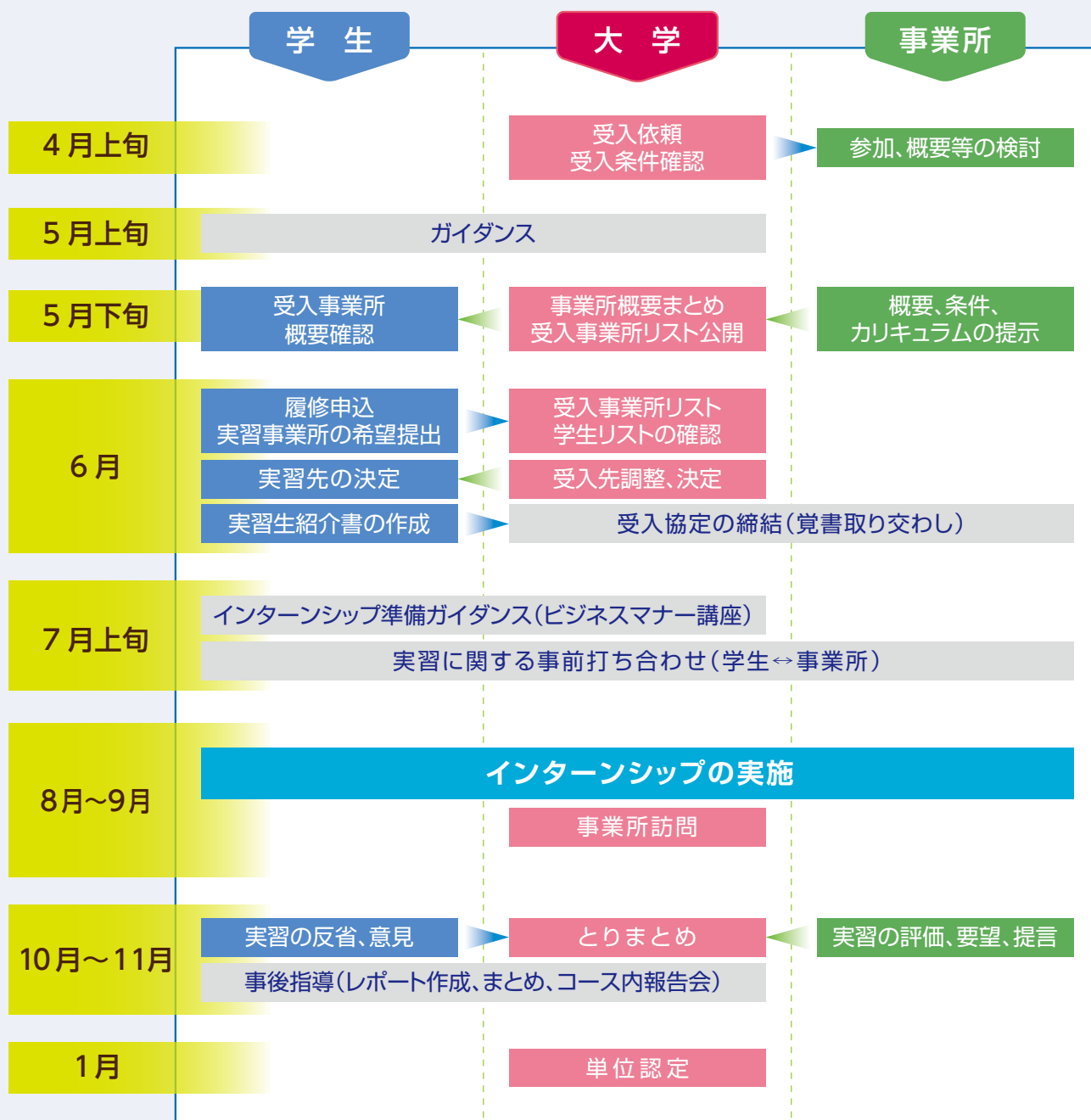
18 単位認定

単位の認定は、事前指導・事後指導・報告会への出席状況及び事業所からの報告、学生からの実習日報及び実習レポートにより総合判定する。

19 その他

この事業の実施に関してその他必要な事項がある場合は、インターンシップ実施委員会で協議する。

理工学部 インターンシップの流れ



学生のメリット

- 事業所の現場における実習を通じて、自主性、独創性、実社会での適応力を養うことができる。
- 実際の現場に触れることで、学問・研究について新たな学習意欲が喚起される。
- 事業所に対する理解が深まる。
- 自分にあった職業を選ぶ能力が身に付く。
- 将来に対して同様の目的意識を持っている仲間と出会うことができる。

大学のメリット

- 実践的な人材を実社会に送ることができる。
- 座学だけでなく実践的な教育カリキュラムを持つことができる。
- 教育改善・充実ができる。産業界のニーズを知り、教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所に対する理解の促進、連携が深まる。
- 学生の進路指導において、ミスマッチを防ぐことができる。

受け入れ事業所のメリット

- 社員等が学生を指導することによって意識が向上し、社員の研修になる。
- 学生との意見交換を通じ、新鮮な視点、新たなネットワークを得ることができる。
- 自社に適した学生と、つながりを持つことができる。
- 新卒採用の選考において参考になる(ミスマッチングを防げる)。
- 大学(教員等)との連携が深まる。研究ニーズを大学へ反映させることができる(卒論、修論テーマ、共同研究への発展など)。
- 大学教育に産業界等のニーズを反映させることができる。教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所についての理解が促進され、学生を通してPR効果が期待できる。
- 実践的な人材育成という社会貢献ができる。

受け入れていただいた 11 事業所のうち 7 事業所を対象にアンケートを実施し、6 事業所から回答をいただきました。

● インターンシップ実施を決めた理由(複数回答可)



社会・地域への貢献になる …… 5
 キャリア教育(職業教育)に協力できる …… 5
 職場・職員の刺激になる …… 3
 新卒採用の参考になる …… 4
 企業PRの機会になる …… 5

● インターンシップの好ましい実施時期(複数回答可)



夏季休暇期間(8月～9月) …… 6
 冬季休暇期間(12月～1月) …… 0
 春季休暇期間(2月～3月) …… 0
 事前協議により随時可能 …… 0

● インターンシップの好ましい実施期間



5日間 …… 5
 4日間以内 …… 0
 6日間～10日間 …… 1
 11日間以上 …… 0

● インターンシップ実施によるプラスの影響(複数回答可)



人材育成に対する意識啓発、スキル向上 …… 5
 受け入れた現場全体の活性化 …… 3
 業務の見直し、改善につながるきっかけ …… 0
 現在の学生(若者)気質の把握、理解 …… 4

夏季インターンシップ実習に参加した学生 10 名を対象にアンケートを実施しました。

● インターンシップ受講の動機(複数回答可)



自己啓発、研鑽のため …… 7
 単位取得のため …… 11
 就職先の一つとして考えている企業のため …… 3
 家族、友人、先生からの薦め …… 1
 なんとなく・無回答 …… 0

● 研修期間について



適切な長さだった …… 11
 もっと長くても良いと思った …… 3
 長かった …… 0

● 研修先の受け入れ体制は整っていたか



整っていた …… 12
 完全とは言えないが基本的に満足 …… 2
 その他 …… 0

● 実習内容に対する満足度



満足 …… 12
 やや満足 …… 1
 やや不満足 …… 1

● 受け入れ先の対応に対する満足度



満足 …… 13
 無回答 …… 1

● 今回参加して得るものがあったか



得るもの的大いにあった …… 11
 得るものがあった …… 3

2020年度 理工学部インターンシップ実施委員会名簿

	コース	氏名	内線	メールアドレス
委員長	電気電子通信コース	大坊 真洋	019-621-6983	daibo@iwate-u.ac.jp
副委員長	マテリアルコース	大柳 洸一	019-621-6919	oyanagi@iwate-u.ac.jp
委員	化学コース	村岡 宏樹	019-621-6323	muraoka@iwate-u.ac.jp
	生命コース	芝 陽子	019-621-6311	shibay@iwate-u.ac.jp
	数理・物理コース	根岸 健太郎	019-621-6387	knegishi@iwate-u.ac.jp
	知能・メディア情報コース	明石 卓也	019-621-6464	akashi@iwate-u.ac.jp
	機械科学コース	小野寺 英輝	019-621-6433	hideki@iwate-u.ac.jp
	社会基盤・環境コース	大河原 正文	019-621-6444	okawara@iwate-u.ac.jp
学務課 理工学部担当（学生センターA棟④番窓口）			019-621-6307	grikei@iwate-u.ac.jp

令和2年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に流行するという未曾有の状況のなか、本学部ではやむを得ず対象学生を限定しインターンシップ事業を実施することとなりました。大幅に規模を縮小しての実施となりましたが、例年行っている事前指導に加え、感染拡大防止等に関わる指導も行いながら、10名の学生が無事に夏季インターンシップを終えることができました。

このような状況下で学生をお受け入れ頂いた事業所、ならびに実習の実現には至りませんでしたが受入の了承を頂いた事業所の皆様方には深く感謝申し上げます。誠にありがと

うございました。アンケートなどを通して頂戴したご意見は、貴重な資料として来年度の実施に反映させる所存でございます。今後もインターンシップについてのお問い合わせやご意見などをお待ちしておりますので、ご遠慮なくお申し出ください。

なお、下記ページにインターンシップ情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

●掲載URL

<http://www.eng.iwate-u.ac.jp/is/>

Thank you...



〒020-8550
盛岡市上田三丁目18-34
岩手大学学務部学務課理工学部担当
TEL 019-621-6307
FAX 019-621-6065
E-mail grikei@iwate-u.ac.jp